

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

大河ドラマ『青天を衝け』にエキストラとして参加



血洗島獅子舞保存会

会長 設楽政男さん
 事務局長 吉岡駒治さん 副会長 林桂さん

伝統芸能を次世代に

地域の豊作を祈願し、魔よけのために舞う『獅子舞』。郷土の偉人渋沢栄一翁の地元・血洗島の諏訪神社には昔から行われている『血洗島獅子舞』があります。

「血洗島獅子舞は元亀元年（1571年）に始まったと伝えられています。」血洗島獅子舞保存会会長の設楽さんは続けてこう話してくれました。「明治の時代に獅子舞が少し廃れてしまった時もあるらしいのですが、明治38年に栄一翁がこの獅子舞を復興してからは地域の伝統を受け継ぎ、今に至っています。」

保存会の現在の会員は23人ですが、地域全体が会員という思いで活動を行い、子どもたちの獅子舞が主に披露されています。平成

17年からは地元のかたからの助言で男女問わず、獅子舞を披露するようになりました。例年であれば、10月に『諏訪神社秋季例大祭』が行われる予定でしたが、今年は新型コロナウイルスの影響もあり中止となってしまいました。そのような中、大河ドラマ『青天を衝け』にエキストラとしての参加依頼がありました。

「獅子頭や灯笼なども実物が使われ、笛の音も実際のお祭りの音色を参考にしたものとなるので、とても楽しみです。参加したことは貴重な経験になりました。」と3人で出演の感想を話してくれました。今後について伺うと「栄一翁も愛した地域の伝統が後世に引き継がれるように取り組んでいきたいですね。」と3人が笑顔で話してくれました。



▲エキストラとして参加している様子。出番まで撮影を見ながら待ちます。

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか散歩

⑧ 諏訪神社（血洗島）

今日は諏訪神社にきたよお。この神社はみんなもよく知っている渋沢栄一さんの地元・血洗島にあるんだよ。鳥居の奥には立派な建物が見えるねえ。左にあるのは石碑かな？さっそく見にいってみよ〜っと。



◀この石碑は『渋沢青淵翁喜寿碑』だよ。大正5（1916）年に栄一さんの喜寿（77歳）を祝って血洗島のひとたちがお金を出し合って建てたんだって！神社に行くとき説明が書いてあるチラシがあるから、みんなも行ってみてね。



▲この建物は『拝殿』だよ。『渋沢青淵翁喜寿碑』を建ててくれたことへのお返しとして、栄一さんが建てて寄付してくれたものなんだって！
 *100年以上前の建物が残ってるってスゴイよね〜。

ふっかちゃんのつぶやき

食欲の秋♪栄養たっぷりのおいしい食べ物をたくさん食べて元気に過ごそうねえ♪(o0ω0o)Y



L・フォルテ

男女共同参画情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気と笑顔で参画するまち ふかや
 男女共同参画推進センターの愛称です。このコーナーでは、男女共同参画に関する情報を皆さんに紹介します。

個人権政策課 ☎ 574 - 6643

みんなちがって みんないい

性のあり方（セクシュアリティ）は、①生まれ持った身体の性、②自分の性別をどのように認識するかといった心の性（性自認）、③好きになる性（性的指向）、④服装や振る舞いなどの表現する性（性表現）の4つの要素があるとされています。

多くの人は、体の性と心の性が一致し、異性を恋愛対象としており、おそらく自分の『性自認』や『性的指向』を特別意識することなく生活をしていると思います。しかし、性のあり方によっては、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）となるかたもおり、調査によって、人口の5～10%、つまり10～20人に1人は性的少数者といった結果が出ています。

性的少数者の代表的な呼び方として、LGBTやLGBTQといった言葉があります。Lはレズビアン（同性を好きになる女性）、Gはゲイ（同性を好きになる男性）、Bはバイセクシャル（性別に関わらず、同性を好きになることも異性を好きになることもある人）、Tはトランスジェンダー（体の性と心の性が異なる人）、Qはクエスチョニング（性的指向や性自認がはっきりしない、決められない状況にある人）のことを言います。

このような人たちは、見た目では分からなかったり、人と違うという不安から隠していたりすることもあるため、その存在に気付かないこともあります。社会の中にはさまざまなセクシュアリティの方がいることを認識し、ともに認め合っていくことが大切ではないでしょうか。



心の広場

藤沢小学校5年（現6年）
新井 理桜さん



東日本大しんさい

2011年3月11日。あの大きな地しんから8年が経過した。「3・11」といわれている東日本大しんさいである。

私は当時二才で、地しんが起きた時、こわくてお母さんの足にしがみついていたと、あとから聞いた。ひさい地は、だいが元のすがたにもどりつつある。だが、8年経った今でも、ひなん生活を送っている人が約五万四千人もいるそうだ。その中でも、プレハブの仮設住宅に住んでいる人は約五千人もいるそうだ。私は、この数字を知った時、とてもおどろいた。また、このしんさいで亡くなった方は、約一万六千人ということも知った。その中にはきっと、子どもを亡くした親、親を亡くした子どもたちもいて、たくさんの方が苦しんでいるのだろうと思った。

ひさいされた方々の中には、関東などに転校した子どももいたそうだ。その転校先でなんと、いじめられた子もいたそうだ。私は、このことを知った時、

「本当はなぐさめてほしいはずなのに、もっときずついでしまう。」

と思った。もし、私がお母さんの立場だったら、悲しくて学校に行けないと思う。私は絶対にいじめなどせず、人権をそんちょうできる大人になりたい。みんながこう考えれば、とてもよい社会になると、私は思う。

しんさい当時、ぼ金活動や復興支えん活動が、日本全国で行われていたということも初めて知った。しかし、現在ではそれらも、だんだんと減ってきているらしい。私は、「もっとぼ金活動や復興支えん活動を、たくさんの人に続けてほしい。そして、私もそれらに少しでも協力し、ひさい者の方々の力になりたい。」と強く思う。

毎年、3月11日14時46分になると、「もくとう」をしている。私は今まで、その意味を深く考えずになんとかやっていた。しかし、この作文をきっかけに、たくさんの方々のことを知ることができた。これからは、「亡くなられた方々、安らかにねむってください。」と心から思いたい。

私は今、食べ物や住むところなど、なんの不自由もなく生活している。東北の人たちだって、私と同じ「人権」をもっているのだから、一日でも早く元の生活にもどってほしい。私はこの作文を通して、どこかで大変な思いをしている人がいることを忘れず、人をいたわれる大人になりたいと、強く思った。